

## 2013 年度外国語教育ワークショップの実施

外国語教育研究センターでは本学の外国語教育のさらなる向上を図るため、外国語科目担当教員を対象として随時「外国語教育ワークショップ」を行っているが、平成 25 年度は講師として東洋大学総合情報学部教授の湯舟英一先生をお招きし、下記の日程で行われた。湯舟先生は外国語教育メディア学会（LET）など英語教育に関連する多くの学会でご活躍で、読解や音読に関する研究論文が学会誌に何度も掲載されており、この分野における代表的な研究者の一人である。

ワークショップテーマ：「認知科学からみた外国語教育の理論と実践」

日時：10 月 5 日（土曜日） 13：00 ～ 15：00

場所：中央教育研究棟 5 階 503 教室

出席者：25 名

このワークショップでは近年急速に研究が進みつつある認知科学や脳科学の観点から、効果的な外国語学習および教育についてお話いただいた。特に外国語教育の現場でよく行われている音読やシャドーイングを例にとり、認知的に一定の負荷を掛けた状態で繰り返し訓練することで、徐々にそれが自動化、高速化することを目指すことで、効果的な外国語の習得が可能となることを理論的な観点からわかりやすく説明して下さった。

その際キーワードとなるのが「チャンク」と「ワーキングメモリ」で、前者は「音調によって一まとまりとして文法的にも統合された語群からなる」かたまりを指し、後者は入力された情報を一時的に保持するメモリーの役割を果たすもので、コンピュータで言えば同じ記憶装置の処理速度が比較的遅いハードディスクと比べて、記憶容量は少ないが処理速度がきわめて速いキャッシュや

ランダムアクセスメモリーのようなものということであった。人間がことばを理解する過程においては、入力された情報を音声や文法を手がかりとして入力順にチャンク化し、それをいったんワーキングメモリーに入れ、それを保持しつつ音声から意味へと情報処理を行うとのことであった。母語の場合、このような情報処理はすばやく無意識に何の苦もなく行われているが、外国語を理解しようとする場合、それと同様の処理を外国語でも行うことが求められる。したがって、外国語を習得しようとする場合、この処理過程の速度を意識的に速めたり、強化したりする必要があるということであった。それを可能にするために、講演の最後では教室で実際に役に立つ様々な練習方法を提示していただいたり、先生自身が考案された e-learning 教材をご紹介していただいた。これは教科書の内容をネット上でも学習可能にしたマルチメディア・ウェブ教材で、たいへん楽しく学習できる教材であった。今後このような教材が様々な言語で作成されることを期待したい。(文責：熊井 信弘)

参考：神田・田淵・湯舟（2010）『英語脳を鍛える！チャンクで速読トレーニング』国際語学社.